

川づくり 清瀬の会

会誌 第25号 2015年 9月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616



川づくり・清瀬の会は 今年もたくさんの魚を
展示しました



ボート遊びもウォーターボール
も夢中で楽しみました



目 次

柳瀬川・空堀川合流点工事 今年度完成予定	宮澤 とよ美	2
柳瀬川の「親水」機能について	小西 一午	5
杜の守り人 伊藤ヨシさんを偲んで	宮澤 とよ美	7
伊藤ヨシさんを偲んで	戸塚 弘	8
水質調査に参加して	木村 芳信	8
埼玉県 和田吉野川見学について	田中 くに子	9
河川と自然シリーズ⑬ 夏の菜園	田島 通夫	11
植栽だより 植栽木の成長	宮澤 とよ美	12
清瀬川まつりの思い出	大栗 れい子	13
2015 きよせ環境・川まつりを終えて（環境）	宮澤 とよ美	14
2015 きよせ環境・川まつりを終えて（川遊び）	金内 彰	15
カルガモは川の守り神??	大谷 郁夫	15
なんて美しい川なのだ！ ～フランス人が見た柳瀬川 私が見た柳瀬川	船木 淳	17
ドライブと温泉①	木村 芳信	18
活動記録（平成27年4月～平成27年9月）	宮澤 とよ美	19
事務局だより	宮澤 とよ美	22

柳瀬川・空堀川新合流点工事今年度完成予定

宮澤 とよ美

いよいよ柳瀬川・空堀川新合流点工事也大詰めになってまいりました。平成 24 年 12 月 12 日、予想もつかない新合流工事分流点の設計図が示されて以来、「天然護岸・河畔林を守りたい」「人工物で河川内を埋め尽くさず、流れが自由に淵や瀬を作られるように」「2つの新規落差工を生き物が遡上できるやさしい構造に」「折角複断面を単断面に変更、約 7m 広がった植栽地の両岸へ有効な緑化」「現合流点 1.8m の落差工を全面魚道に」を求めて話し合いを求めました。

25 年度に 2 度清瀬市で話し合いの場を持ちましたが、結果は一方的な説明で終わりました。26 年度も同様担当者が変わり希望を持ちましたが何も変わることもなく、26 年 9 月 3 日を最後に清瀬での話し合いは終わりました。毎回説得のみで話し合いの成立しないこの河川工事に対し、その理由がどこにあるのかその訳が知りたく、「分土工・分水堰の設計」「水理模型実験」「途中から計画された橋梁」について情報開示を都へ求めることに決定。早速 5 名で本庁に向かい書面を提出。当会も河川改修に関わって 20 年、これまでは島谷先生や吉村先生のアドバイスに助けられていました。この度だけは両先生および副市長が本庁や北々建に改善を願ってくださいましたが効なく、初めてのことで情報開示の請求や署名を集めることに集中致しました。

情報開示請求後 60 日を経て書面を入手、丁度工事施工の電子入札の日でした。早速流域上・下流の皆様とも検討。どうしても分土工の形態が変えられない理由が、水理模型実験の委託条件にあり、現柳瀬川への流速を $1.8\text{m/s} \sim 2\text{m/s}$ 、流量が $25\text{m}^3/\text{s}$ にありました。それを否定するためにはこちらも同じ確かめを求められるでしょう。高額な水理模型実験等不可能です。

26 年 12 月 12 日、吉村伸一先生にご同行を頂き、本庁河川改修係長落合氏に面会を求めました折 6 項目のお願いをしてみました。その件で再度話し合いを求め、27 年 5 月 19 日おそらく最後の話し合いと覚悟を決めて出向きました。

その席にはこの工事に関わる部署の担当皆様がお揃いくださり、詰めた検討を下されたのではと予感をいたしました。設計係長がお変わりになり、分流箇所構造、新河川の構造はこれまで通り。大きく検討くださったことは吉村先生のお話のように「分土工下流の護床工は 50 cm 下に埋め淵の形成を可能に」、設計図面通りと主張されていた「空堀川の落差工を、1:10 の自然石を使った全面魚道に」、「車両用管理通路を外側に寄せ、植栽面積を広げる」「各護岸に沿って樹木の植栽を検討」の回答を頂きました。一番有難いことは、空堀川落差工はこれから上流に向け、柳瀬川の豊かな生態系を源流までつなげるためにどうしても、島谷先生のご指導で完成されている全面魚道をと願っていた事が現実に施工されますことは感謝です。ですがコンクリで固められる分流点もう一工夫頂きたく再度下記項目について、6 月 20 日要望書の提出をいたしました。

- 1、分土工、分水堰前後の護床工も連結ブロックとして下に埋め、洗掘対策と生き物の連続性に配慮を願う。
 - 2、新川 1.3m の落差工の下流もコンクリで固めるのではなく、ウオータークッションの施工、湧水を生かす。
 - 3、右岸・左岸の管理用通路幅を最大でも 4m に抑え、他は決まりであっても狭い所です、2m 又は 3m で少しでもゆとりを持った植栽地確保。
- 上記ご検討を賜りたく、お願い申し上げます。

この要望書に対し、7月15日下記回答が送られてきました。

- 1、分水施設付近の護床工について
分水施設付近の護床工については、分土工下流の現柳瀬川右岸側の護床ブロックを河床より 50 cm 程度低く設置することで、河岸の淵の形式を阻害しないよう配慮をしている。
- 2、新川の落差工下流について
新柳瀬川の護床工においては、中央を窪ませた横断形状とすることで推進を確保魚の移動を妨げないようにしている。又、下流側の護床工は、護床ブロックを用い感覚を確保することで、地下水等にはいりよをしている。
- 3、右岸・左岸の管理用通路について
管理用通路の幅は 4m を確保している。又、新柳瀬川左岸の緑地については、将来管理者である清瀬市、所沢市の意見をふまえて整備内容を調整してゆく。

平成18年3月に、柳瀬川流域河川整備計画（東京都管理区間）が策定され、当会は、これからの河川のあるべき姿が示された整備計画に沿って、この工事に対してこれまで数々の要望書を提出、河川管理者と話し合ってきました。

新柳瀬川護岸工事



この河川整備計画は、東京都の素案に対し、都と流域連絡会委員が一項目ずつ検討し、合意され発効されました。

まず（要望1）は、分土工下流のみではなく分水堰上・下流の護床工についてもとお願いをしているのです。はぐらかされてしまいました。要望1、2に対し、都の柳瀬川整備計画ではこのように書いています。ご面倒でも読んでみてください。

- 「生物の生息環境の創出・保全・再生、河畔林や自然に形成された淵等からなる自然形態の保全を図るとともに、自然形態が消失した箇所については、植生などが回復できるよう工夫。また、緑が連続し、魚類などの生物が生息し広範囲に移動できる多様な環境となるよう努める。
- 川づくりに用いる素材は流域内に本来から存在するものなど、その場にふさわしいものを選定する。
- 柳瀬川には、アユ等の縦断的な移動を行う種や、

ウグイ等の行動範囲の広い種が生息している。しかし、本流域内の河川は勾配が急峻であり、河床の洗堀防止などの観点から、落差工などの水制工を設置しなければならない。従って河道内の構造物の設置は必要最小限に留めるとともに、多段式落差工とすることなどにより、落差工部分を魚が移動しやすいよう流水の連続性確保に努める。

柳瀬川分流工事

(要望3)については、●河川は、流域住民にとって親しみやすい身近な自然空間であり、河川環境への関心の高まりから、自然豊かな水際や河岸を保全・再生することが望まれている。今後の河道計画においては、沿川住民が安心して暮らしていくために治水安全度の確保を図ると同時に、次世代に引き継ぐための河川環境を保全・整備し、川と沿川の風景とが調和した美しい景観、川らしさなどを保っていくことが必要である。



●管理用通路について、管理上支障のない範囲で、平常時の遊歩道的な利用ができる機能を持たせた整備を行う。●幅員は4mを確保することを原則とするが、河川毎の状況を考慮して必要な条件を設定していく。●管理用通路等には、管理上支障のない範囲で地域に適した多様な植栽をする。(一部抜粋です都のHPをご覧ください)

河川整備計画は、国交省通達の「中小河川に関する河道計画の技術基準」に沿ったものであり、(多自然川づくりポイントブック I・II・III)に技術要点と施工例が掲載されています。吉村先生もこの件について直接都へご要望くださいました。

「27年度で2年間の遅れを取り戻し完成させます」北々建のお返事です。この遅れの原因はどこにあるのでしょうか。最初の計画にない、地元も望まない車両用通路となる橋の建設、それ故に以前に合意された植栽地等いくつかの事項が反故にされました。

是非実現可能なことは最後までご検討いただきたく北々建に願いを託します。その土地にあった美しい河川環境・景観を次世代に残してゆけるよう、河川法が改正されて間もなく20年、豊かな生き物を創出できる川づくりをと北々建が立ち上げた流域連絡会は、平成11年から行政と協働で行動をとってきました。その間、空堀川の流量確保について、河川を良好な水辺とするために、又生き物の多様性を求めて「樹木維持管理ルール」がつけられ、7期で「柳瀬川・空堀川の将来像」について真剣に話し合われました。それらをただ絵に描いた餅にしないために、経験豊かなアドバイザーさんを交えてこれからの川づくりについて学び話し合っただけでゆけたらと心から願います。

新合流工事が済みますと、現合流箇所魚道化はすでに決定済。かつての空堀川・柳瀬川旧川の跡地利用も18期の懇談会で「緑と水辺に」と決まっています。まだまだ工事が続きますが、柳瀬川回廊を良いものにして行くために見守ってゆきましょう。

柳瀬川の「親水」機能について

小西 一午

水はあらゆる生物の命を保つために、必要不可欠の物質であるが、その供給源として代表的な河川はそれまでは、洪水から人々の生命や財産を守るための水量調節等の機能や、生活用水ほか農業・工業用水等の利水機能として、旧建設省（現国土交通省）が所管していたものであるが、近時過度に進んだ都市化による急激な人口集中や工場立地に伴う自然環境・居住環境の破壊に対処するための自然生態系を保全し快適な水辺空間を創出するものとして環境保全と親水に対する機能も重視されてきている。

1970年代前半から叫ばれだした親水であるが、当初は人々が水に親しむ行為の“水に触れる。水に接する。”という程度のものであったが、その後前述の環境保全と相まって真に“水に親しむもの”として捉えるようになってきていた。一方環境問題の元締環境庁が昭和42年（1967年）に発足し、公害の憲法「公害対策基本法」の番人として機能しだしたとき、その一環としての「水質汚濁防止法」も施行され水環境の保全の推進に動き出したのに呼応し、建設省も所管の「河川法」を平成9年（1997年）改正し、それまで河川管理の主流が洪水対策などの治水・利水にあったのを“河川管理は治水・利水に加え、河川環境の整備と保全が達成されるよう総合的に行うべきこと”とされ、更に続いて出された通達「河川敷地の占用許可について」では、“河川敷は公共物として河川環境に配慮して利水等に支障のない範囲内で一般公衆の多様な利用にも供すべきもの”とされて河川敷地の具体的利用許可は沿川市町村の決定により可能となり、景観や自然環境との調和を図りつつ、地域のまちづくりの活用に資することとされた。その狙いは人々の環境問題への意識・関心の高まりなどから住民が主体的にまちづくりに参加する風潮が各地域に普遍してきたためである。そこで行政は、都民と協働、連携し、地域の住民や市民団体と都および関係自治体との間で協議する「流域連絡会」を構築することになった。それは地域に活かした親しめる川づくりを進めるため、河川に関する工事の計画、管理に関することや河川環境と歴史、文化など多岐にわたって協議、意見交換するため、都内主要13河川流域連絡会がもたれ、当柳瀬川だけが、合流されてくる空堀川との合同流連となっていたのである。

私はかつて豊島区内の専門学校に勤めていたとき、神田川の流れをそば近くに眺めたり千川親水公園や谷端川親水公園などを学生たちを連れて見て廻り、緑や水のあるオープンスペースが、居住環境の快適性を創出する要素として極めて重要であることを説いていたものである。清瀬に移り住んで、快適な環境と、それを保持するため努力している宮澤さん達のグループに共鳴し、早速仲間に入れてもらった丁度その頃、この柳瀬川流連に応募し公募委員にしてもらい、地域の事情を十分に理解してもらおう良い機会と思っていたが、実情は都北々建主導の運営であることに失望していた。

私は任期中の24年2月に、流連運営について一つの提案をしたことがある。それは、それまで流連には、河川環境分科会と水循環分科会の二作業分科会があるのみであったが、流連の組織の中の分掌として柳瀬川部会（空堀川部会）を設けてほしいという提案だった。その理由は、柳瀬川は東京都と埼玉県の間を流れる河川であり、河川工事区間も両自治体に入り組んでいる箇所が多くあり、清瀬を含む流域10kmほどの間に5ヶ所も存在しているという複雑な事情にあり、河川維持のため埼玉県側との官・民ともに緊密な連絡を保ったり、会場場所も現地近くの中里地域市民センターでもち、きめ細かな対応ができることなどあげたが、流連主催者には一考だにされず否決された。このこともあり、かねて来、流連の進め方に疑問をもっていた私は、一期だけで退任することとしたのである。

さて柳瀬川の当面の最重要課題である合流点の改修工事であるが、新河川法の述べる“治水が確保されれば、その河川の景観、環境などは地元の意向が最優先される”という「金科玉条」を盾にして都側との交渉を重ねてきた地元に対し、「地元の意見は十分に聞いた」という都は本年2月工事の着工に踏み切っている。川づくり・清瀬の会としては、工事の進め方を注視しながら“合流点の環境は、私たちがことのほか大事な思いをかけてきた場所で、これからも、多くの人達がいつでも訪ねてみたくなるような景観、環境を残してほしい”という宮澤会長の言葉のもとに一丸となって工事の行き末を見守っていかなければならない。

そして親水機能としての柳瀬川まつり行事が、清瀬の夏の風物詩として定着していることや、「カワセミ」も観察ができる金山調節池を含む、水と緑の回遊空間柳瀬川回廊が益々拡充整備され、近隣に誇れる親水機能として柳瀬川が、更に一段と素敵な景観となることを願うものである。



金山調節池

森の守りびと 伊藤ヨシさんを偲ぶ

台田の杜をお残し下さいましたことに感謝をして

宮澤 とよ美

平成 27 年 6 月 13 日、天寿を全うされ 98 歳でご逝去された伊藤ヨシさん。
初めてヨシさんにお目にかかったのは 40 年ほど前になります。自然保護団体の運営委員をしばらくご一緒しました。ヨシさんは多くの農地を持ち大変ご多忙だったのでしょ
う、間もなく退会されました。



整備された台田の杜

ヨシさんはお背が高くとても知性豊かな方で、すでに経済の発展と共に環境破壊が始まっていること、特に生活の利便性を追求するために、環境に負荷をかける無数の有害化学物質が発生大気汚染につながる事など、環境に対する意識が高く、それら環境に負荷をかけるものに対して緑が有効である事をお話してくださいました。

「樹木はね、平地や斜面の地形変化をしっかりと崩すことなく保全しますよ！」と一木一草を大事にされていることに感銘いたしました。お若いときからお美しい方で、いつも白いスカーフできりりと髪を包み近寄りがたい強さをお持ちでした。資産家の一人娘に生まれ、女学校の頃から多くの書を読み、絵を描くことを趣味としていらしたとか、「私の絵がしばらく市長室に飾られていたんだ、その絵も火事でみな焼けてしまった」と残念そうでした。

お歳を重ねられてから、戦後の激動の中をご先祖からつながる農地を守るために奮闘されたお話や、今は台田団地になっている柳瀬川に沿う田で、馬方と代掻き、田植えから収穫まで寝る間も惜しんで人一倍働いたこと、伊藤家の米は他家より美味しかったと笑顔で少しご自慢。まだまだ川のこと・田のこと伺っておけば良かったと残念です。

ヨシさんの畑の周りで見られるベニスモモについても話して下さいました。「19歳の頃、武蔵境に出向いたとき、通りかかった農家で 400 本のベニスモモの苗を抜いて捨てなくてはならないと嘆いているところに出会い、そのベニスモモの幼木を何とか助けたいと買い取って、人を雇い畑の周りに移植し、あと疲れて寝込んでしまった」とのこと、お若いときから樹木を大切になさるお姿が見えます。そのベニスモモもヨシさんに助けられて 80 年近く、今は清瀬市の銘木に指定されています。

ヨシさんをご自分の住まいを道隔てた畑地に建て、屋敷跡の裏の斜面林も含めて 1.9ha を清瀬市に寄贈されました。大きなご決断でしたでしょう。子供のように守り抜いた樹木が、伊藤記念公園「台田の杜」として残されることに安心され旅立ちではないでしょうか。近年市内では、雑木林だけでなく畑地まで宅地化され、ヨシさんが懸命に守り抜いた台田の杜は、市民に開放された貴重なみどりです。ヨシさんの思いを胸に感謝し、皆で守ってゆけたらと思います。有難うございました。 合掌

伊藤ヨシさんを偲んで

戸塚 弘

伊藤さんについて知ったのは、私が清瀬ハイコーポに入居してからです。7階の住まいのベランダから早朝見下ろすと、眼下の畠を動き廻る伊藤さんの姿を見かけたものです。その姿はモンペを穿き頭は手拭いをかぶり、長靴をはいた作業姿でした。その姿は日々毎日変わりありませんでした。住まいは竹やぶの中、小さなプレハブ小屋と言える程のもので、まさに戦後直後の頃を思い出されました。

日常は殆ど会話もなかったが、畠を借りて草を生やして叱られた事や田舎から家内の姉達が来た時敷地内に車を置かせて頂いた事。一二度釣ってきた魚を持って行った事。タケノコや野菜を頂いた位だと思われされます。

一度火事で家が丸焼けになりましたが、相変わらずの住まいを続けていました。私達は、敷地の前の道路が狭く一向に改良されず夜間は街燈も無く暗闇となり、交通帰途には困ってしまいました。広大な敷地を売れば快適な生活は充分出来ると思いましたがそれをあえてしなかった理由を後日になり始めて知りました。

伊藤さんは、春先の桃や梅の花、桜の花と緑豊かな自然の景色は多くの人に楽しみと感動を与えてくれました。あの道路を拡張した場合の排気ガスの影響、住宅が多く建てられての環境が大自然を壊してしまうのを恐れて頑張っていたのだと思いました。その姿に今は強く感動させられ強く感謝いたします。

自然の美を守り、残していただいた伊藤ヨシさんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

水質調査に参加して（平成 27 年 6 月 7 日実施）

木村 芳信

今年は昨年のような雨の影響を受けずに、水質調査が行えました。これは世界環境デー（環境の日）に近い日曜日に全国の市民団体が参加して約 180 の河川と 3100 カ所を全国一斉水質調査するものです。当会では空堀川、柳瀬川の 15 カ所を、新河岸川水系水環境連絡会の調査項目にしたがって調査しました。調査団体への報告は 2 カ所になります。（新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会）



検査キットで水質を検査しデータを記入

今年の結果は、空堀川に於いては下水道整備が出来ている為に水の汚れはありませんが柳瀬川は埼玉県側の下水道整備が遅れている為に少し生活排水が流れ込んできている為に少しの汚れがあります。(目では確認できない)

電気伝導度をみても年々改善されてきています。所沢市の下水道化率 93% (所沢市のホームページより) 後少しです。一昔前の洗剤の泡が水面を覆い誰も近寄らない川はうそのような改善です。

綺麗な水質になつた空堀川、柳瀬川の環境を守っていきたいです。

全国調査のデータは、インターネットで“身近な水環境の全国一斉調査”見られます。

埼玉県 和田吉野川見学について

田中 くに子

平成 27 年 6 月 26 日 (金)、木村さんの車で活動センターを午前 9 時出発。

同行者は木村・宮澤・加瀬・田中の 4 名。

関越自動車道東松山 IC から熊谷、滑川方面へ (東松山森林公園の近くと思う)

現地には 10 時頃到着しました。



吉野橋

和田吉野川は、埼玉県熊谷市南西部に端を発する荒川の右岸側を平行するように流れる延長 11.2 k m、流域面積 34.3k m²の一級河川です。

事業実施期間 昭和 41 年～平成 26 年までに田畑だった場所を用地買収し、吉野橋下流までの工事を終了。見学場所は平成 27 年 4 月完成の吉野橋周辺とその上流 660m の未改修の部分で、約 40 名が 2 班に分かれて見学

しました。この部分は昭和 22 年から平成 23 年 9 月まで大規模な浸水被害が多発、近年にも家屋の浸水被害が発生したそうです。

川巾 2m 弱で左岸は見事な河畔林が 600m 位続き、奥行もあり (清瀬の柳瀬川の比にあらず) ケヤキ・ムク・エノキ・クスノキ・エゴ・ニワウルシ・イヌザクラ・クワ・アカメガシなど樹種も多く鬱蒼とした木立で、長い篠竹の川面に倒れたのも見受けられました。

以前は、この河畔林も少し削る計画になっていたようですが、多自然川づくりの勉強会の意見交換会で県が設計修正の検討で左岸側は自然河岸のまま保全する事になったようです。

右岸は田園用地を買収してあったが、300m位上流の真ん中に榎の大木が1本あり、それは残してもらおう様運動するとの事です。

川の水量は多いが、上流で田に水を引いたり、田から水が出たり白濁していて川底は確認出来なかったが朝霞の小林さんの川の魚の調査で、ウグイ・コイ・フナ・オイカワ・テナガエビ・メダカなど確認できました。カワセミ・カワトンボ・ハグロトンボ等も見る事が出来ました。

最後に皆で五感による河川環境指標への好感度チェックを行った。

質問	評価	5	4	3	2	1
○水の流れはありますか	4					
○水が澄んでいますか	2					
○川に魚がいますか	1					
○ゴミはありますか	2					
○全体の景色を見てどう思いますか	4					
○住民によく利用されていますか	3					

以上チェックを皆で挙手により採点しました。上記の採点は私の採点です。

その後、川のすぐ隣の家が大水の浸水で被害にあったため、今は門の所に堰をつくってあるのを見せていただきました。



河畔林豊かな吉野川

午後3時頃帰路につきました。

現地の観察会に参加して見て、どこの川も改修となると用地買収、工事設計、検討会と実際に工事着工迄には長い期間が掛るが良い結果が出るには仕方のない事。

既存の設計について課題解決のため修正内容を検討。

基本方針：現況の、みお筋及び河畔林を保全すると云う事で右岸側は自然河岸のまま保全し、左岸側のみの片岸拡張幅とする最狭部でも十分な河床幅を確保するとともに掘削深を0.6m以上とする。

十分な河床幅が確保出来る箇所は護岸全面に自然な河岸を形成すると資料にあるが、本当に希望する結果になる様望みたい。

午後は近所の集会場に入る。雨が降り始める。

熊谷市のほたるを保護する会の方達のお話や質疑応答があった後、企業の「ビオトープ工法会」の宣伝があり、練石張に変わる画期的な工法として、連結自然石、背面ネット、一体空石積工の現地の実施箇所のスライド説明、実際綾瀬川でその工法を行った箇所があり、結果良しとの意見がありました。

た。

夏の菜園

田島 通夫

この時季、家庭菜園は雑草に悩まされています。誰だったか「雑草という名の草は無い。それぞれ固有の名を持っている」と怒っていたが、畑では邪魔もの、厄介ものである。

広い畑でやっと一通り雑草を取り終ったと振り返るともう産毛のごとくゾックリと芽を出し、あっという間に成長する。朝日を全身に浴び朝露をキラキラ輝かして己をアピールしている。

特に成長が早いのがカヤツリ（蚊帳吊）草で、春先から陽射しと水分に恵まれ我が物顔でグングン伸びる。かの有名なバビルスも仲間、何でこんなに季節に律儀なんだろう。何でこんなに温度に忠実なんだろう。すこしは遠慮してくれと言いたい。

子どもの頃、三角形の茎を裂いて蚊帳を吊って遊んだあのカヤツリ草です。スックと立ちスマートで凛とした立ち姿。金銀の冠を頂き長い3本羽根毛を風になびかせ悪魔の貴公子のよう。懐かしさと美しい立ち姿だが、想像もつかないしぶとさと生命力を持ち、捨てても根つき憎さ百倍。

次に厄介なのがスベリユ（滑莧）。地を這い成長がすこぶる早い。赤紫の茎を持ち

肉厚のへら状で光沢がある葉、葉と茎は茹でると食用となり又、利尿や解毒剤になるらしい。園芸種の松葉牡丹やポーチュラカの仲間だが早い成長と共に、とに角しぶとく生命力旺盛ですぐ根づいてしまう。

いずれも畑や畔、野原、道端などどこでも見掛ける。身近でありふれた野草。普段は見逃してしまいがちだが畑となると話が違う。

生える場所が違えば見方が違う厄介もの。春から始まった草との戦いは、これからもまだまだ続く。少々憂うつです。



植栽地だより 植栽木の成長

宮澤 とよ美

2012年3月10日植栽日、2012(h24)年4月1日清瀬市保存林No.8-13号に指定。4年目の2月、清瀬ロータリークラブの皆さんから物置を頂き設置までお手伝い頂く。お蔭様で整理がしやすくなってきました。

今その物置が小さく見えるほど植栽木は大きく成長。昨秋は3本のクヌギが実を結び、そのドングリが今年発芽、6本の幼木が伸びようとしています。植栽したエノキ・クヌギが大きく枝を伸ばし徐々に林床が暗くなり始め、もうこれ以上は幼木を育てるゆとりはないが何とも愛おしい。

今春はそれぞれの幼木が成長、実生木にも開花が見られる。まず桜の1本も(オオシマザクラに似る)ソメイヨシノに少し遅れ、大きな白い花を数輪つけ、大きめの果実が黒く熟す前に鳥に啄ばまれてしまう。ゴンズイも今年は大くさんの花をつけ、面白い形の実をつけています。

発芽する都度切られてしまうヤマグワも残した2本が実をつけ味見、甘さをかみしめました。



ゴンズイの果実



ナンキンハゼの雄花と果実

自生木で最も成長の早いナンキンハゼ(トウダイグサ科)は6月の末に枝先の葉腋から総状花序を出し、黄色い小花をつけました。花序の上部に雄花を多数つけ、雌花は下部に2~3個つけます。

川沿いの斜面に生えるオオバベニガシワも成長が早く立て込んできたら切られるかもしれない。その他トウカエデ・エノキ・ムクノキ、カリン・ムクロジュまでが芽をだし成長しています。

林床の草本にも変化が見られ、平成25年に1本生えたメハジキが昨年はかなり増え花をつける。それでも本数は数えられる程でしたが、今年は無数に生え花をつけました。

種子をまいて3年目の昨年春発芽をした「クララ」(マメ科)6本のうち、大きめの1本に白い花をつけました。7月初めからネジバナ(ラン科)、ニガクサ(シソ科)が花盛り、コバノカモメズルが今咲いています。

右の写真は、5月6日植栽地のエノキについてオオムラサキの幼虫4匹の中の1匹です。ここは野鳥が多く、どの位食べられたのでしょうか。自然の中で清瀬生まれのオオムラサキに会えるのも夢ではないように感じられます。



初めてのオオムラサキ幼虫

きよせ川まっりの思い出

大栗 れい子

3～4年も前になりますが、私たち夫婦が川づくり・清瀬の会の活動に参加する中で毎年夏に開かれるようになった「きよせ川まつり」は、ひとときわ嬉しいイベントでした。

それは、一つ、柳瀬川の水が子ども達の川遊びを容認できる水質になってきていた事（会員活動として毎年実施している定点観察としての水質検査は透明度や採取した水のペーハーテストで確認実証済みですが、残念ながら経口摂取はできません）

二つ、子ども達の川遊びには欠かせない水棲生き物との触れ合い観察が出来た事。（その数、種類が増えている。）

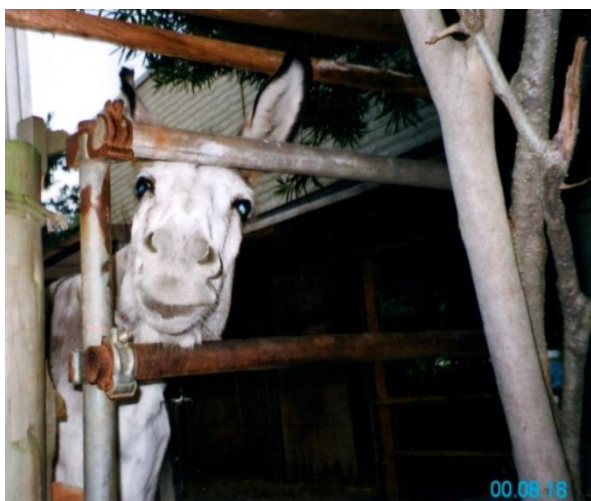
毎回、当日水槽の中を覗く子ども達や日常的に川への関心の無かった親御さん達へも驚きを提供していた。

三つ、イベントを盛り上げる参加団体が増え、楽しい出し物も多く、安全確保のためのボランティア動員数や、清瀬市民のみならず柳瀬川で繋がる近隣地域住民の参加もにぎわいを増してきつつあること。

その他にもアイデアや制作の出来栄を競う手作り「いかだコンテスト」は声援やため息や笑い、喚声と、イベント一番の盛り上がりでした。

そしてロバの【まーるちゃん】がボランティアで参加。幼児向けイベントで小学生以下の子ども達が【まーるちゃん】の背にまたがって、ほんの少しの距離でしたが、この時にしかできない珍しい貴重な体験をしていた風景……。

私がおとなしく優しそうなお【まーるちゃん】の側に近寄っていくといきなり瞳の長い



涼しげだったその目で私を見据えて「フーフー」と鼻息荒く牽制してきたのにはびっくり、私は思わず後退り……おまえみたいなデブは乗せないぞと言いたげな威嚇の姿勢には恐れいりましたが何とも楽しい思い出になりました。夫と二人で散歩の途中にほぼ毎日人参を差し入れにっていました。【まーるちゃん】も私たちが小屋の近くにまで行くと柵から顔を見せてくれるようになっていたのですが、夫の入院などで会いに行けない間に足の怪我で亡くなり、悲しいことに思い出だけが残りました。

ありがとう！！ 優しかった
【まーるちゃん】です

2015 環境・川まつりを終えて (環境)

宮澤 とよ美

連日の猛暑のなか、会員皆様にご参加ご協力を頂きありがとうございました。今回の環境部門は、第一回・第二回開催の反省から、実行委員会では展示内容の充実と会場のレイアウトについて重点的に話し合いをいたしました。その結果もありますでしょうか、どのブースも人盛りがしていたように見えました。

ご参加くださいました皆様はどんな感想をお持ちでしたでしょうか。あきらかにこれまでとは会場の雰囲気の違いがありました。それは家族単位の参加者が多く、土手のフェンスに沿ってシートを敷き、日よけのテントまで現れお茶やお弁当を楽しんでいました。

当会は今年、木村氏の PC 技術力を発揮して頂き、『柳瀬川を知ろう』をテーマに柳瀬川の歴史を解りやすく、現在と対比したパネル5枚を作製、柳瀬川の植生パネル等、



ボードへのパネル展示

ブースでは例年に変わらず魚の展示を致しましたが、ここはどなたにも興味を持って見て頂けます。矢島氏・増田氏の投網と、夜半から頑張っておりました大竹君ご一家のお蔭で、アユ・オイカワ・マハゼ・ヌマチチブ・ヨシノボリ・ボラ・コクチバス・ライギョ・スジエビ・モクズガニの展示、特に外来種ですが40 cmを超えるライギョが人目を引きまします。又大竹氏が頻りに水槽の水替えをして下さり、魚を生き生きと見て頂く事が出来ましたこと感謝でした。



ライギョ

護床保護の為に河床の構造を変えると、流芯が左岸に移り水草が洗掘で失われる。子供たちが魚とりをしようとしても、これまでいたドジョウ・フナ・エビの類、ハゼの仲間、ヤゴなど水際に棲む魚がいなくなり、昨年からはとうとう魚とりを中止。子供たちの魚をとる楽しみと共に生態系の豊かさを体験し学ぶ機会を失いとても残念です。

当会は水草の植栽を市と共に川越県土に願い出、4名の方が土手に出向いて下さいましたが、都県境が流れの中にある事により何事もすんなりいかない。水草の植栽は許されず、生き物にやさしい、いい川づくりを目指すことの難しさに直面しました。

2015 環境・川まつりを終えて (川遊び)

金内 彰

2015年の環境・川まつりは、平成27年7月26日(日)に開催されました。例年のごとく「真夏日」の開催です。川遊びの責任者として、参加する子ども達やボランティアの皆様の健康問題(特に熱中症)を心配しました。

結果として、今年度も軽傷のお子様1名だけで終了することが出来ました。

川遊びの担当者は、子ども達が安全に遊べるように事前から準備を怠りません。今年度は、懸案だった川遊び会場の瓦礫をきれいに除去していただき、土嚢で堤防を作っていた(昨年同様)、その下流を幼児たちの水遊び場として開放することが出来ました。子ども達も保護者も大喜びでした。

全て東京都北多摩北部建設事務所の皆様のご配慮・ご尽力と感謝申し上げます。

さて、以上のような安全に遊んでいただける会場に今年度は、新規の遊びが加わりました。「丸松産業」の松崎一志代表取締役様のご厚意による「ウォーターボール」です。ボート遊びで楽しんだ子ども達の次の遊びは「ウォーターボール」です。大行列が出来ました。「ウォーターボール」で遊んでいる子も、順番を待っている子ども達も保護者も大はしゃぎです。「丸松産業様」ありがとうございました。

例年にないことがありました。一つに、川遊び会場付近にテントが張られたこと、もう一つは、イカダコンテストに米軍横田基地のファミリーが参加してくれたことです。

きよせ環境・川まつりもいよいよ国際的人気が出てきたのかなあ?

来年はもっともっとたくさん方が参加していただけたらと期待しています。

今年度も無事終了することができましたのも、ボランティアいただきました皆様と清瀬高校一年生のご協力には心から感謝申し上げます。

カルガモは川の守り神??

大谷 郁夫

長年吸っていた煙草を4年前にやめ、それをきっかけに身体、特に足腰を鍛えるため、空堀川及び柳瀬川の川沿いをウォーキングすることから始めた。

コース設定は日頃、レンジャー活動で行っているせせらぎ公園、金山緑地公園及び城前橋を中心に滝の城址公園までを目標に、片道約3.5キロの道程を往復約90分と目標を立て進めた。レンジャー活動ではゴミ目線(下ばかり見ている)のため、周りの様子があまり目に入らず、川沿いにどんな生き物が生息しているのかほとんど判らず、関心

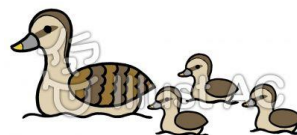


もなかった。しかしながら、毎朝、ウオーキングをするうち、いろいろな鳥や魚達がいることに気がついた。特に、カルガモはどこにでもいる鳥であるが、観察すると仕草がとても可愛い。遊歩道を歩く姿はお尻をふりふり、どことなくぎこちないが、空から舞い降りる時はスマートでかっよよくまるでジェット機みたいである。

カルガモはカモ科マガモ属に分類さ

れる鳥類で、繁殖形態は卵生で水辺に巣を作る。1回の出産で10～12個の卵を産む、天敵はカラス、蛇など、大雨で川が増水すると雛が流されるなどで、最終的に2～3羽と減少してしまう。ウオーキング中、台田の運動公園前の親水階段から老夫婦がカルガモ達に食パンを小さくちぎり与えているのを目撃。その食パンを川中の鯉やハト達が横取りする争奪戦である。一般的に、カルガモは貝類（タニシ）や藻を主食としていると聞いていたが、なんでも食べる鳥なんだと再認識した。

5月から7月にかけてカルガモの繁殖時期にあり、柳瀬川沿いはカルガモの話題で持ちきりとなる。松柳橋付近では10羽の雛を目撃、金山調節池では11羽の雛を、さらに台田の運動公園前の川中では8羽の雛を目撃、などの情報が寄せられるたびに、その場に急ぎ、皆で雛たちを見守る。ほほえましい光景である。カルガモは、一般的に川沿いに多く生息するが、街中にも時々出没すること。カルガモ親子があるとき、小金井街道を横断し、畑の中に入って行くのを目撃、無事、巣に戻れますようにと皆で見守った。清瀬市ではないが、練馬高野台駅付近の笹目通りをカルガモ親子が横断しているのを目撃、走っていた車がいっせいに停車。道路がたちまち渋滞、それを見ていた歩行者が大きな箱を探してきて、カルガモ達を箱に入れてその場を立ち去ったそうだ。その後、近くの石神井川に放したとのこと。心温まる話である。カルガモの様子を日常、良く見ていると、空堀川、柳瀬川の守り神ではないだろうか、ふとそんな気がした次第。ウオーキングを開始して11月で丸4年になる。（禁煙も同じ）その効果があるのか判らないが、269と高かった中性脂肪が現在114と大幅に低下した。しかしながら、体重はいっこうに減らない。良いのか悪いのかわからないが、とにかく毎日汗を流しながら歩いている。



なんて美しい川なのだ！

～フランス人が見た今の柳瀬川 私が見てきた柳瀬川

船木 淳

ある日フランスの友人ミッシェルと柳瀬川を歩いた。日頃ミッシェルは
Paysage naturel France que belle Japon. (自然風景は日本よりフランスの方が美しい
ぜ)

と、うそぶいていたが、柳瀬川を見せた瞬間

What'm belle rivière! (なんて美しい川なのだ！)

と、絶叫したのだ。さらにカワセミの美しさに驚き、魚の多さにも驚いていた。

初めて私が柳瀬川を見たのは、今から 42 年前、1974 年ことだった。母が台田団地の中にあつたスーパーマーケットで薬剤師として勤務していて、当時住んでいた福生から自転車で母の勤め先へ遊びに来て、その帰り道に柳瀬川を覗いてみた。悪臭が漂い、水面には泡が浮かぶ、典型的な「汚い川」だったのだ。柳瀬川だけが「汚い川」ではなく、当時の都市河川は何処もこんな感じで、生活排水や工業廃水が流れ込み、ゴミが投げ込まれている光景は「当たり前」だと思っていた。1980 年に台田団地へ引っ越して来て、最も身近な川となった柳瀬川だが、最初に見た時と変わらない「汚い川」のままだった。しかし、何処か放っておけない、不思議な魅力があるような気がしてならなかった。その後柳瀬川は首都圏の河川に携わる人々が「柳瀬川は特別だよ」と称賛する川へと変貌を遂げ、野鳥が集い、魚が泳ぎ、四季折々の美しい風景を見せてくれるようになった。

フランスの友人ミッシェルに汚れていた時の様子、再生の過程を聞かせると、納得した様子で「自然を再生するのも人間。しかし、自然を壊すのも人間だ。自然は壊れ始めたら一気に進み、そこから再生させるのは容易ではない。大事なことは、壊さないために何を為すべきなのか、常に考えておいた方がいいよ」と、私に語りかけた。

ミッシェルはインドの詩人であり思想家であるラビンドラナート・タゴール研究の第一人者で、ダゴールの影響で日本の自然に関心を持ち、30 年来の友人である私を訪ねてくれたのだ。

タゴールは日本の自然を愛する、というより、日本人の自然に対する美意識を高く評価し続けた人だ。ダゴールに傾倒しているミッシェルは、柳瀬川の自然に感動しつつ、柳瀬川を再生させた人々の美意識を評価した上で、私にアドバイスを贈ってくれたのだった。ミッシェルの一言は私の心に刻まれ、ますます、母なる川である柳瀬川を愛し続け、常に「壊さないために何を為すべきなのか」を考え続けたいと思う。

ドライブと温泉①

木村 芳信

今回は、日本ロマンチック街道（長野県上田市から栃木県日光市までの全長約 320km を通過する広域観光ルート）の一部の国道 120 号線は、栃木県日光市から群馬県沼田市に至る国道で日帰り温泉の白根温泉薬師の湯を紹介します。このルートは、春は新緑、秋は紅葉がきれいでドライブコースには最適です。ルート沿いには、吹き割の滝、尾瀬、日光等観光名所が多数あります。又日帰り温泉も数多くあります。

今回紹介する白根温泉薬師の湯は、沼田から走ればいたるところに看板があるのでご存知の方も多いと思います。（いつも割引の看板）ちょうどドライブで疲れた体を癒すのには最適です。泉質は単純泉で、源泉かけ流し温泉です。露天風呂もそれなりのひろさです。時間の無い方には足湯もあります。

沼田から走ると途中で“吹き割の滝”があります。足に自信のある方は約 1 時間の散策コースがお勧めです。更に



日帰り温泉薬師の湯



吹き割の滝

た日帰り温泉があります。この先は、丸沼高原（スキー、オートキャンプ、散策、宿泊等の施設）ここは素どうりして金精峠を目指します。金精峠のお店でヤマメの塩焼きを、愛犬と共に頂くが櫛しか残らない。金精峠は冬季は走れませんが開通後（5月の連休前）に走ると道路沿いにふきのとうが芽をだしていて車を止めてとっている方もいます。開通時は、道路の両側に多くの残雪が残っています。金精道路は、1995年に無料になりました。金精峠を過ぎると日光です。戦場ヶ原で休憩し、今市（日光みそのたまり漬・上澤梅太郎商店）で美味しいたまり漬（らっきょう）を買い帰途につきました。

走ると尾瀬へ行く道と日光方面に行く道分かります。水芭蕉の季節には、尾瀬方面で片品水芭蕉の森が最適です。（約 7,500 株）

今回は日光方面に向かいます。途中には多くの地元野菜の販売するお店が多くあります。私が見ても安いと思いました。（野菜の値段何て??）地元野菜の販売店を過ぎると先に紹介し

◇◇2015年度4月～9月の活動記録◇◇

- 4月1日(水) 新合流点について、リバーフロントのサポートセンターにSOS。サポートセンターも島谷氏・吉村氏がアドバイザーなので方法なしとの事。
- 4月2日(木) 副市長広報2人と淵の森にバーブ工視察。宮澤案内
午後：幹事会 幹事会の後、幸楽で花見。参加者:19人
- 4月4日(土) カタクリまつり緑の基金募金 金内・田中 5日(日) 宮澤・大谷
- 4月10日(金) 総会資料印刷と用意 加瀬・宮澤
- 4月13日(月) 埼玉連打ち合わせ(埼玉県庁) 木村・宮澤
- 4月18日(土) 27年度総会。活動センター 1:30 参加:15名 議案すべて可決。
審議の後自由に川について話し合う。
- 4月21日(火) 午前環境・川まつり実行委員会。
- 4月29日(祝) 空堀川外来種駆除。ゴマノハグサ科フラサバソウを確認。
- 5月2日(土) 矢島さんと増田さんビオトープに「ニホンバラタナゴ」400匹26年7月の幼魚と石貝40個(琵琶湖産)を放流。
- 5月6日(水) 植栽地にオオムラサキ幼虫4匹が蛹になる寸前確認。
- 5月7日(木) 幹事会。20周年記念冊子について
- 5月8日(金) 加瀬さんと森さんの講演資料を印刷。5時まで。骨医者200円
- 5月10日(日) 新河岸の総会、水質の結果が出る。田中・宮澤
- 5月12日(火) 40万の補助金申請オラクルに発送。
- 5月15日(金) 緑の審議会。清瀬の緑の維持管理について条例策定について。宮澤
- 5月16日(土) 記念号第一回編集会議(金内・鈴木・田中・大谷・加瀬・宮澤)
・体裁と経費について 取題の担当と方法
- 5月19日(火) 北々建との話し合い。参加:加瀬・木村・宮澤 本庁:2人 北々建:7人。
1. 分土工下流は護床工を50cm埋める。 2. 植栽地は要望を生かす。 3. 空堀川の落差工は自然石による全面魚道。 4. 分土工落差工はまんなか2m巾のハーフユーン魚道設置。大きな成果。
- 5月20日(水) 物置の整理:加瀬・木村・大谷2人・宮澤
- 5月27日(水) 柳瀬川流域連絡会(北朝霞)加瀬・宮澤
- 5月28日(木) 第1回 環境審議会 19年度策定の中間見直し 宮澤
- 5月30日(土) 今日も夏日。1時半所沢森氏の講演会。「原発と自然エネルギー」
大谷・加瀬・鈴木・藤岡・宮澤
- 5月31日(日) 市内一斉清掃 柳瀬川 参加10名
6時六都科学館の依頼で、矢島・増田氏投網、アユ11cm 小5cm
1時間で40匹魚の遡上が少ない。種類も少なく残念。六都科学館4名
午後新河岸へ水質調査用紙受け取り。 宮澤

- 6月2日(火) 放射線量測定のため、空堀川3か所土採取。
- 6月4日(木) 川幹事会 環境・川まつり、記念誌について・水質調査について
- 6月7日(日) 水質調査, 1班:4人 2班:3人 3班:2人 4班:7人 参加:16名
- 6月9日(火) 深沢市議氏から河野友里恵都議氏の新合流点工事に対する都議会書面による質問状に対する回答書を頂く。礼状発送。
- 6月11日(木) 水質調査のまとめ 加瀬・田中・宮澤 作表と新河岸へ報告:木村
- 6月15日(月) 明薬大江口先生・石井先生と放射線量結果について検討
空堀川1か所セシウム 147:1120 ベクレル 異常に高い
- 6月16日(火) 午前環境・川まつり実行委員会。芝小・清明小にチラシを届ける。
宮澤
- 6月19日(金) 10:00 北々建鈴木科係長と工区、業者との草刈の立会い 宮澤
- 6月20日(土) 北々建所長宛に要望書提出 1.分水堰上下流も護床ブロックを沈める。
2.1.3m直壁落差工の下流もウォータークッションに 3.管理通路の幅を3~2mに狭めて欲しい
- 6月21日(日) 植栽地の草刈。木村・大谷・宮澤・加瀬・酒井 18時から13日に98歳で亡くなった伊藤ヨシさんの通夜。加瀬・田中・木村・戸塚
22日:告別式
- 6月26日(金) 埼玉県和田吉野川を見学(天然護岸を生かした川づくり)
木村・田中・加瀬・宮澤
- 7月1日(水) 北多摩の街の皆さん清瀬市見学会 台田の森→森田家→金山緑地→中里富士 清瀬駅 田中・宮澤
- 7月2日(木) 幹事会 (欠:3人) 記念誌の件・会誌の件・環境・川まつりの件
- 7月3日(金) 都公園協会に補助申請書類発送。
- 7月9日(木) 川まつり筏の検品と筏作り 金内・加瀬・田島・丸山・大谷
- 7月10日(金) 社協に10万円の補助金を受け取り。宮澤
- 7月12日(日) プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成への申請書を渋谷事務所まで届ける。
午前空堀川のオオブタクサ刈り 11:00まで 大谷2人・木村・酒井・宮澤 5人
- 7月16日(木) 活動センターでボランティア第一歩入門講演会。 宮澤
- 7月23日(木) 環境・川まつりパネルの作成5枚 木村・加瀬・宮澤
- 7月25日(土) 3時、川まつりの用意。金内・大谷・加瀬・木村・宮澤
水質調査:良好。 清瀬橋の下流大きな淵の補修工事を行う。
- 7月26日(日) 環境・川まつり 快晴 大竹君ご家族・矢島氏・増田氏:魚とりをして頂く。流水は少し多め。川遊び2班に分かれる。川遊びの参加者が少ないように見受けられる。 魚:アユ・オイカワ・マハゼ(初めて捕獲)コクチバス・ヨシノボリ・コクチバス・ライギョ・モクズガニ・スジエ

び。 参加者：28名 三菱三井UFJの補助金不可の通知。

7月30日(木) 活動センターの草むしり。加瀬・宮澤

8月6日(木) 川幹事会 (欠:2人) 環境・川まつりの反省 ボランティア体験河川清掃・生きもの調査について

8月14日(金) 社協に大和の補助金申請の推薦文を依頼に行く。

8月20日(木) 17日からの降雨増水分流下のため柳瀬川新分流点と新合流点。



8月22日(土) 15:30、ボランティア体験の用意をして。



8月23日(日) ボランティア体験事業。柳瀬川清掃と生き物調査。参加中3・小6・小5・小3計6名
社協:星野氏・肥後様 ヌマチチブ3、トウヨシノボリ・ボラ・オイカワ・ドジョウ・コオニヤンマヤゴ

●コンクリ破片にヌマチチブの卵

8月24日(月) 10時市役所に北々から最終図面が来る。植栽地に少し意見を添える。宮澤・木村 午後はふれあいの実行委員会。 展示会場：1F

8月28日(金) 多摩六都科学館打ち合わせ、プラネタルーム拝見をする。木村・加瀬・大谷・宮澤

9月3日(木) 幹事会 (欠)1名

9月26・27日活動センター会員発表会について
展示品と当番について、会誌25号について

9月8日(月) 川まつり部会反省会 金内・田島・加瀬

9月15日(火) 環境・川まつり反省会 宮澤・金内

9月18日(金) 柳瀬川流域連絡会(野塩) 戸塚・加瀬・宮澤

9月23日(水) 会誌25号印刷・発行

9月26～27日(土・日)清瀬市民活動センター活動発表会

26日：さかな・パネル展示 27日：パネル展示

9月30日(水)柳瀬川・空堀川流域連絡会 7期のまとめ 宮澤・加瀬

◆事務局だより

台風から変わった低気圧の影響で、関東・東北の河川流域に記録的豪雨が居座り、流下能力を超えた増水は土手一杯に溢れ出ています。今までに経験のないこととか、9月10日鬼怒川の土手決壊のニュースから始まる広域冠水、津波を連想する恐ろしい光景でした。

戦後まもなくまでは、毎年、季節ごとに同じような天候のパターンを繰り返していたように記憶します。冬は深い雪が降り寒く、夏は暑くとも夕刻には涼しい風に癒されました。

近年は、多くの台風と洪水、干ばつや竜巻など私達の身近なところでも明らかに異常気象と思われる現象がエスカレートして表れます。異常な猛暑や暖冬も人間は何とかしのぎますが、逃げる事の出来ない植物やその他の生物は絶滅への道を進みます。

異常気象を見越しての地球温暖化対策は一層強く求められます。当会にできることは、環境破壊をくい止めるために、樹木を増やすこと、ヒートアイランドの河川に水を流すこと、雨水を地下浸透させ水循環を推進すること等、機会あるごとに総合治水を提案し実践してゆきたいと思います。

●近々の行事 ご多忙のことと存じますがご参加下さい

○清瀬活動センター活動発表展示会

平成27年9月26日(土) 11:00から15:00 ～27日(日) 10:00から15:00

※9月26日(魚とパネルの展示) 27日(パネルの展示)

○清瀬市民まつり

平成27年10月18日(日)

※多摩六都科学館のブースで、柳瀬川の魚の展示をいたします。

○清瀬ふれあい祭り

平成27年11月7日(土) 10:00～14:00

場所：コミュニテプラザひまわり 1階

※魚とパネル展示を行います。

○植栽地の維持管理作業 10月予定

○市内一斉清掃 11月予定

※改めてお知らせいたします。どうぞご参加、ご協力お願い申し上げます。

川づくり・清瀬の会 事務局 木村方

〒204-004 東京都清瀬市中里1-745

電話番号 042-491-4324

E-メール kimuray25@gmail.com

ホームページ

<http://http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>